

視覚表象とジェンダー

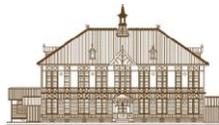
生活環境科学系・生活文化学領域

山崎 明子

教授

YAMASAKI Akiko

博士(文学)(千葉大学)



■研究キーワード ジェンダー, 視覚文化, 芸術, 美術教育, 女子教育, 日本近代

■主な所属学会 意匠学会, イメージ&ジェンダー研究会, 美術史学会, 日本女性学会, ジェンダー史学会, 美術科教育学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.3cfcf02a6d21e614520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

ジェンダー視点による視覚文化研究。特に、美術制度のジェンダー構造について研究しており、ジェンダー化された表象や表象のジェンダー秩序を分析対象としながら、視覚表象の生成と受容をめぐる社会的問題を探究しています。

具体的には、美術(絵画・彫刻・工芸等)と美術教育、およびそれらが基盤とする制度においてジェンダーの問題がいかに存在しているのかということが中心的課題です。またそこから派生する多角的な問題にも関心を持っており、美術制度における女性創造者の地位、女性の職人に関する言説分析、さらに美術制度のなかで周縁化されてきたジャンルや素材、テーマなどを分析しています。

広く一般の方にも読んでいただける本として以下のようなものを書いています。



アピールポイント

研究は概要に書いた通りですが、私の研究そのものが言説空間や表象空間においてジェンダーの問題がいかに存在するのかを考えるものであり、そのことがゼミなど教育の場の形成に影響を与えているところが重要です。アピールポイントは以下の3点。

①近現代社会の「ものづくり」をめぐるジェンダー構造を明らかにすることで、工業・産業界において徹底して女性労働を周縁化するとともに、搾取の構造を作り出してきたことを論じてきました。これは現代まで続くジェンダー化された産業構造の問題です。視覚文化ゼミは、この構造に疑問をもち自ら学び研究する学生・大学院生が学ぶ場となっています。

②男性中心社会において周縁化された様々な創造行為や創造物を再定位することで、既存の社会におけるモノの配置に疑問を投げかけることが大事だと考え、議論の場を作っています。日常の何げない対話やメディアの表象のなかに見出された小さな疑問や違和感を、しっかりと抽出し、議論の場に提出することで、問題を発見しそれを解明していくための糸口をつかんでいくことが大事だと思っています。

③女性たち(必ずしも生物学的性によらない)の創造的ネットワーク構築のために、問題を共有しながら対話の場をつくることを重視しています。特に、女性が学ぶ空間を常に一緒に作り上げていくことが大切で、「対話」や「つながり」を重視し、信頼できる安全な議論の場にはしています。